

酒井教育長定例記者会見概要

日時：平成30年4月27日（金曜日） 14：00～14：15

場所：大阪府庁別館6階 委員会議室

【教育長より】

4月1日付けで教育長に就任し、本日で4週間が経過しました。この間、挨拶回りや挨拶をお受けしたり、校長会などの会合や府立高校の開校式に出席したり、初めてのことで緊張の連続でした。また、その合間に政策課題についてのレクチャーを受けました。教育は初めての分野ではありませんが、時代の変化に合わせて教育行政も大きく変化しており、身を引き締めて諸課題に取り組んでいかなければならないと改めて認識しています。

またこの間、府立高校における指導要録の誤廃棄、書道における指導漏れ、個人情報紛失、さらには、中学校における調査書の評定記載誤りによる合否判定の変更、そして、全国学力・学習状況調査の出題範囲の未履修などの問題が立て続けに発生しました。

これらの問題は過去にも発生しており、その都度、マニュアルを作成したり、注意喚起を行ったり、様々な改善策を講じてきましたが、依然として後を絶たない状況です。これは、一部の学校現場において、ルールが徹底されていない、あるいは、ルールを徹底しようという意識が甘いことや、教育委員会の指導も不十分であったことが要因であると感じています。

いずれにせよ、一番影響を受けるのは児童・生徒であり、こうした問題が1つでもあると、教育行政全体に対する府民の皆様からの信用を失うこととなります。このため、本日、府立学校長研修において、個人情報の適正管理と文書管理の徹底を、教育次長から各校長へ改めて指示します。また、調査票の誤記載と指導内容の未履修について、5月2日（水曜日）に、臨時で市町村教育委員会の担当部課長を集め、改めて各学校に対し、指導を徹底することとしています。今後も、校長会、教員に対する研修会、市町村への説明会などあらゆる機会を通じて、再発防止策を徹底していきます。

「大阪私立中学校フェア2018」について

次に告知案件が2件ございます。まずは、「大阪私立中学校フェア2018」の開催についてです。日程は、4月30日（月曜日）10時から16時30分まで、場所は、大阪府立国際会議場です。

この催しは、「大阪私立中学校高等学校連合会」の主催で毎年開催されている進学相談会であり、私立の中学校受験を考える児童・保護者を対象に、府内の全ての私立中学校がブースを設けて、学校の紹介や個別相談を実施するものです。昨年度は3,700人が参加されました。たくさんの選択肢や情報を提供することにより、一人ひとりが明確な目標を持って中学校に進学できることを期待しています。

「明治時代と大阪—近代の黎明」について

2件目は、「明治時代と大阪—近代の黎明」についてです。日程は、5月15日（火曜日）から6月10日（日曜日）まで、場所は大阪府立中央図書館です。明治150年記念企画として、大阪府公文書館との共催になります。

明治元年は、大阪府が設置された年でもあり、公文書館が所蔵する当時の資料を展示します。近代の礎を築き、明治36年に大阪で開催された第5回内国勸業博覧会に結実させた偉業を振り返ることで、2025年の万国博覧会誘致の機運の高まりにもつなげていきたいと思えます。なお、6月9日（土曜日）には、大阪府立大学の橋爪紳也特別教授をお招きし、「博覧都市大阪—第5回内国博覧会から70年大阪万博、2025年国際博覧会誘致まで」というテーマで基調講演を開催します。この機会にぜひ大阪府立中央図書館にお越しください。

記者の皆様には、以上2件にかかる周知にご協力をお願いします。

【質疑応答】

（記者）本日、IRの整備に向けた法案が閣議決定されましたが、教育上の観点から、教育長はIRの誘致に関してどのような見解をお持ちであるかを教えてください。また、大阪府では今年度から、高校生を対象に、依存症対策の取り組みを始めると聞いていますが、予算の話が出た段階よりも、内容や進め方等が具体化していれば教えてください。

＜教育長＞ IRについては、大阪の都市魅力という観点から、不可欠な要素だと考えています。ただ一方で、マイナスの部分も予想されますので、リスクヘッジの部分は教育も担うべきだと思っています。まだ私も具体的なところは勉強できていませんが、大きな方向性としてはそういったものですので、具体化することになれば、予算面も含め、今後しっかりと検討したいと思っています。

（記者）本日の教育委員会会議で、教職員の懲戒処分の状況が報告されました。その中でも性的な関連の事案が目立っているように思うのですが、その背景や要因の分析等はされていますか。

＜教育長＞ 担当課で状況や原因の分析等は行っていますが、きちっとしたところまでは聞いておりません。ただ、様々なSNSを含め、発信する機会が増えている中で、色々な情報が氾濫しているという状況があります。その中で、どのように節度を持って、教員自身が、あるいは生徒自身が考えるかが課題だと思っています。

（記者）対策として、新たに何かこうしていきたいといった考えはお持ちですか。

＜教育長＞ ご指摘のある点について、特にこれがというものはありません。

(記者) 今後検討される予定ですか。

<教育長> これだけ増えてくると、検討せざるを得ないと思います。

(記者) 先日、校則の大幅な見直しを府立学校でされたかと思いますが、見直しで十分な対策ができたとお考えですか。また、頭髪検査については100%ではない中で、今後も、継続して校則の見直しを進めていく意思があるかどうかを教えてください。

<教育長> 校則は、基本的には絶えず、点検・見直しをするというのが大原則です。これだけ社会情勢等が変わっていく中で、変更した部分に代表されるような旧態依然として、そこまでしなくてもというものや、まだそのようなことをしていたのというものがありました。今回の一斉点検は、課題意識を持って、学校によっては生徒の意見も聞きましたので、大きな意味があったと思います。今後は、各学校において、常時、生徒や保護者、地域の意見を聞きながら、学校の判断で行っていくべきだと思っています。教育庁としては、状況を見ながら、必要があれば、点検・見直しの機運を高めていくべきだと考えています。